

田無第四中学校及び柳沢中学校の生徒数変動への対応に関する検討について

1 地域協議会設置の目的について

田無第四中学校は、最大で19学級となり、2022年頃から数年間、教室数が不足する可能性がある」と試算している。一方、柳沢中学校は、8学級以下であり、市内の市立中学校の中でも生徒数が少ない中学校となっている。

このような状況を踏まえ、両校の教育活動を配慮しながらハード面やソフト面の対応について、本協議会で今後の方向性を検討する。

2 西東京市学校施設適正規模・適正配置に関する基本方針（抜粋）

■教育環境の整備としての学校規模の確保

子どもたちが学校における集団活動を通じて、社会性を身に付け、豊かな人間関係を築くためにはクラス替えが可能となる1学年2学級以上が望ましい。

■小規模校化への対応

小学校においては、児童数の減少により単学級編成の学年が出現した段階で将来動向を予測し、引続き減少が予測され、実態としても、小規模校化がより顕著となった場合（複数学年で単学級編成となり、将来的にもその状況が続くことが想定される場合など）に、周辺動向を踏まえ、統廃合も視野に入れた検討を行うこととする。

■大規模校化への対応

児童数が施設規模を上回り増加する学校については、隣接する学校との通学区域の変更等により隣接校に誘導することも考えられるが、周辺地域の状況や地域コミュニティへの配慮なども勘案して対応する必要がある。また、通学区域の変更を、児童・生徒数の増減に応じて頻繁に実施することは、地域との関係からも適切とはいえず、長期的な視点に立ち検討を進める必要がある。

将来動向を予測したうえで、学校施設の更新計画とも調整をとり、一時転用教室を普通教室に戻すことや、増築等を行うことにより、可能な限り現地施設での対応を行うこととする。

3 改修及び増築の費用（参考）

整備手法	金額
教室の転用	約1,500万円以上
教室の増築	約5,000万円以上 ※2教室を想定